



IFALPA Asia Pacific Regional Meeting 報告(その 2)

7. 各国ALPA からの報告 (抜粋)

<インドネシア>

ガルーダ・インドネシア航空のパイロットがインドネシア ALPA に加盟したことで、組織人数が約 5,000 名になった。

<中国>

各航空会社の拡大基調は依然として続いている。その結果、中国国内の航空交通量は増大を続けており、中国当局はそのための対策を継続的に行っている。そんな中、中国国内における英語による ATC (航空交通管制) 用語の使用が、2017 年から “Highly Recommend” (強く推奨される) という位置付けになる予定である。そのため、三大航空会社 (中国国際、中国東方、中国南方各航空会社) は国内線・国際線を問わず ATC 用語には全て英語を使用するという指針が出されている。その他、ATC 用語は全て英語を使用しなければならないと規定している中国の航空会社もある。今後、中国における ATC 環境の向上が期待される。

2016 年 10 月上海虹橋空港で発生した、中国東方航空機同士が滑走路上であわや衝突するといった Runway Incursion (滑走路誤進入) の事例について詳細の報告があった。RWY36R を着陸した A330 着陸機が RWY36L を横断する際に、RWY36L を離陸しようとした A320 離陸機と最接近距離 20ft まで接近したというものである。離陸機が V1 未満で TOGA モードを使用して回避したものの、一步間違えば大惨事になるところであった。

その他、中国では乗務前の検査として、機長のみを対象に毎パターン毎に血圧と心拍数を測定することが義務付けられているとの報告があった。アルコール検査については任意で実施しているということだった。

<韓国>

日本で発生した韓国籍航空機の事故・インシデント 2 件 (① 2015 年 4 月広島空港で発生したアジアナ航空 A320 型機事故、② 2016 年 5 月羽田空港で発生した大韓航空 B777 型機の RTO (緊急離陸停止) と緊急脱出事故) において、ALPA Japan がパイロットへのサポート体制を確立し、ALPA Korea や IFALPA 本部と協力してパイロットに対して不利益が生じないよう支援活動を行った。今般、その尽力に対して ALPA Korea から IFALPA と ALPA Japan に対して感謝の意が示され、ALPA Japan に記念品が贈呈された。



ALPA Korea 代表と ALPA Japan 代表

<タイ>

タイ ALPA は、タイ国内で事故が発生した場合における「Emergency Response Guide (緊急対策ガイド) を新たに設定した。タイ国内空港で事故等が発生した場合、タイ ALPA の事務所

に連絡が直ちに繋がる連絡体系が確立され、タイの空港へ就航するパイロットにとって、また一つ心強い環境が整備されたことになる。

*ALPA Japan では既に緊急連絡網を確立しています。詳細はALPA Japan 手帳をご覧ください。

8. ALPA KoreaからALPA Japan、そして羽田空港消防隊へ



前述した ALPA Korea から ALPA Japan への記念品贈呈とは別に、大韓航空機 B777 機長が RTO 発生時、迅速な消火活動に尽力した羽田空港消防隊とその関係者への感謝の意を綴った手紙を ALPA Korea から手渡され、直接羽田空港消防隊とその関係者へ手渡して欲しいと ALPA Japan に対して託されました。この手紙は、大韓航空機機長がハングル語で書いたものを、ALPA Korea のメンバーが自ら日本語に訳したもので、当該機長の感謝の気持ちが手紙の一言一句から感じられ、一読した私たちも心を打たれました。

← 大韓航空機長からの手紙を受け取る ALPA Japan 代表

そして 2016 年 12 月 5 日、ALPA Japan 議長以下、メンバー 5 名で羽田空港事務所を訪問し、空港安全部長や大韓航空機の RTO 時に現場へ駆けつけた空港保安防災課所属の消防関係者にお会いして、大韓航空機長からの手紙を手渡しました。消防関係者の方々がパイロットからお手紙を頂くのは初めてだということでしたし、ALPA Japan にとっても消防関係者と公式に意見交換の機会を設けたのは初めての経験でした。当日は、当該機長から託されたお手紙を手渡すと共に、日頃からお世話になっている現場関係者の方々に当該機長に代わって謝意を述べました。その後、事故当日のお話や日頃の訓練内容などについて意見交換を行いました。

今回の活動は、世界のパイロットと羽田空港の消防関係者が ALPA Japan を通じて繋がった初めてのケースです。こうした国内外の活動を引き続き行うことにより、ALPA Japan は世界の航空安全により寄与していきたいと思えます。



羽田空港の消防関係者と ALPA Japan メンバー

9. 最後に

今回の Meeting で、ALPA Japan から羽田や成田の最新状況、直近の取り組みなどを紹介しました。それに対して IFALPA 側から、「近年 ALPA Japan が、航空局や NAA（成田空港株式会社）などへ積極的に働きかけを行っていることは大変素晴らしく、今後も継続して欲しい」とのコメント、また ICAO 主催の様々な会議体へ ALPA Japan から積極的な参加を期待する意見等がありました。

ALPA Japan は今後も IFALPA との連携を密にして、日本国内はもちろんのこと、アジア地域全体の航空安全向上にも引き続き取り組んでいきます。

以上